

在校生・卒業生からのメッセージ



井坂 みのりさん
医療科学主専攻 3年生
茨城県立
日立第一高等学校出身

皆さんこんにちは！この場をお借りして、受験生や医療科学類への進学を検討している皆さんに少しでも医療科学類の魅力をお伝えできたら嬉しいです。

まず、医療科学類の魅力として、臨床検査技師の資格取得に必要な専門科目だけでなく、それぞれの研究分野の最前線で活躍している先生方から、直接その研究内容を学ぶことができます。筑波大学は基礎医学から臨床医学にわたって様々な研究が行われているため、多分野の最新研究に触れられる環境です。もちろん専門科目も講義だけでなく、実習も充実しており、臨床検査技師として必要なスキルを十分に学べる環境でもあります。

次に、医療分野における国際交流のプログラムが充実していることも魅力の一つです。海外の大学から学生が筑波大学に訪問するプログラムもあるため、海外に行くことに抵抗がある学生でも気軽に国際交流を経験できます。もちろん海外の大学に留学するプログラムも多数あり、自分が本当に参加したいプログラムを厳選できます。1年生のうちから参加している学生も多いので、早い段階で海外に目を向ける良い機会になると思います。

そして、卒業後の選択肢が幅広いことも大きな特色です。本学類では4年間の課程を終え、国家試験を合格することで、臨床検査技師として医療施設で働くことができます。また、医療科学類は研究者としての養成環境が整っているため、大学院に進学し、国内だけでなく海外でも研究者として医療分野の研究をするという道もあります。他にも医薬品会社、製薬企業、化粧品会社など多くの選択肢があり、将来の可能性を広げることのできる学類だと思います。

長くなりましたが最後に、医療科学類はレポートや実習で毎日大変忙しい学類です。しかし、同期や優しい先輩方と一緒に充実した大学生活を送ることができます。皆さんも医療科学類で充実したキャンパスライフを一緒に送りませんか。皆さんのご入学をお待ちしております。



八幡原 礼音さん
国際医療科学主専攻 3年生
神奈川県立
市ヶ尾高等学校出身

私は、医学の様々な分野での最先端の研究について学ぶことができ、また臨床検査技師の資格を取得できるという点に魅力を感じ、医療科学類への入学を決めました。

現在私が所属している国際医療科学主専攻は、3年次から研究活動を始められることが特徴です。英語の論文を読みその内容を英語でプレゼンするという授業などもあり、研究に必要な不可欠である英語力を向上させることができます。また、定められている授業の履修要件を満たせば、医療科学主専攻と同様に病院実習を経て臨床検査技師国家試験の受験資格を得ることもできます。私自身も臨床検査技師として医療に携わるということも視野に入れているため、これらの授業を履修しています。

また、主専攻に関わらず国際交流や短期留学プログラムが豊富などところも医療科学類の魅力です。例えば、長期休暇中に海外で研究室体験や病院見学をするプログラムや、逆に留学生を筑波大学に招いて研究室体験やグループワークを行うプログラムなど、海外の学生との関わりを通して語学力や専門知識を深めることができます。また、これらのプログラムでは文化交流なども行われ、異文化を学び理解する貴重な経験にもなり、他の学類と比べて必修の科目が多い医療科学類で、視野を広げるいい機会にもなります。

最後に、医療科学類には将来のビジョンを明確に持っている人も中にはいますが、漠然と医学の分野に興味があって入学してきたという人も多くいます。これを読んでくださっている方の中にも、もしかしたらいらっしゃるかもしれません。正直私も研究をしてみたいという希望はあったものの、研究自体をしたことはなく、どのようなものか想像ができませんでした。しかし、そういった人であっても、その人の努力次第で、全力で取り組んでいる人には手を差し伸べ、サポートして下さる先生方や仲間がいることが医療科学類の最大の魅力だと感じています。ぜひ医療科学類に入学して、充実した4年間を過ごしていただきたいです。皆さんのご入学をお待ちしております。



見里 朝史さん
国際医療科学主専攻 4年生
滋賀県立
彦根東高等学校出身

初めまして、見里朝史と申します。私は滋賀県出身で、遙々筑波大学まで来て医療科学類に入学したわけですが、地元から離れてまでこの大学に入学することに決めました。その理由の一つを皆さんの参考としてもらえれば嬉しいです。

私は筑波大学がとても多様性のある大学であると考えています。私以外にも、様々な地域から来ている学生がいます。それに加えて、留学生も数多く在籍しています。また、海外交流が盛んです。私が筑波大学に魅力を感じた理由の一つに、この多様性というものがあります。「自分の知らない世界を見たい」そう思って、多様な文化に溢れた筑波大学に魅力を感じました。筑波大学では海外との交流が盛んで、留学するチャンスが数多く設けられています。特に、医療科学類では東南アジアや台湾などで研修する機会が与えられています。私もいくつかのコースに参加しました。その上で、私は大学のプログラムを利用して1年間ロシアへ留学しました。こういった留学の経験が今の私の価値観を大きく変えていると思っています。様々な考え方をを持った人と接することで自分にとって良い刺激となると考えています。

さて、医療科学類では、基礎医学と臨床医学の双方を学んでいくことになります。これらを勉強していく中で自分の興味を持った研究を進めていくことになります。私は幹細胞に魅了されて、再生医学の研究室に入ることになりました。幹細胞治療では傷が治ったり、目が見えるようになったり、若返ったりできる可能性を秘めています。こういった研究ができるのも、筑波大学の研究水準が高いからだだと思います。研究室内においても多様性があり、東南アジアやヨーロッパなどからの留学生などと交流しています。日本にいながら、外国の分化に触れられる機会も多いです。

もし皆さんが、多くのことにチャレンジしてみたいと思っているのであれば、私は筑波大学をお勧めいたします。なぜなら、多くのチャンスがそこら中にあるからです。



石井 そらさん

医療科学専攻 4年生
千葉県 私立聖徳大学附属
女子高等学校出身

皆さんは、今どんな想いでこのパンフレットを手にとってくださっているのでしょうか？受験勉強の合間のちょっとした息抜き、医療科学類とはどういう学びの場であるのかといった期待と不安を抱き覗いてみた…など様々だと思います。4年ほど前、皆さんと同じように筑波大学合格を夢見る受験生だった私も、幾度となくこのパンフレットを読んでモチベーションを高めていたことを懐かしく感じます。志望理由書や面接ノートに書いてあった当時の夢と今の夢を比較してみると、変わっていないこともあれば、医療科学類での経験を通して変化したこともたくさんあります。そこで、私の本当にやりたいことを教えてくれたこの医療科学類の魅力を皆さんにお伝えさせていただきたいと思います。

医療科学類では3年生になると専攻が2つに分かれます。臨床検査技師を目指す医療科学専攻と研究者を目指す国際医療科学に分かれることで、それぞれに特化した科目を履修していく中で必要な知識や技術、そして医療従事者となるものとしての自覚を大いに養い、自分の夢の実現へとより近づけていくことになります。私が所属する医療科学専攻では、臨床の現場で働くことになったときに欠かせない知識を座学で学びながら、それだけに留まらず、実際に臨床実習という形で病院に出向き、業務の見学をさせて頂いたり、時には患者さんのご厚意のもと検査技師さんのお手伝いをさせて頂きました。臨床の現場で働いていらっしゃる検査技師さんの姿やお声は非常に貴重なものであり、各々に異なる状況を抱える患者様の大切な命と真摯に向き合う姿勢や、各検査室で聞いた検査技師さんが感じるやりがいなど、ここでは語りきれないほど学びの多い時間で、すべてが新鮮でした。国際医療科学専攻よりも長い11週間という期間にわたり、刺激の多い環境に身を置かせて頂けたことが、振り返ってみても私のなかでは一番大きなターニングポイントとなりました。というのも、実は入学当初は「再生医療に従事する研究者になりたい!」という一心だった私でしたが、患者さんを救う医療において臨床検査が縁の下の力持ちとなっていることを実感し、徐々に臨床検査技師への憧れが募っていったのです。

さらに、従来の夢であった再生医療への想いもきちんと果たすことができている所も医療科学類の強みです。医療科学専攻でも卒業研究として、第一線をゆく研究者の方々と共に本格的な研究に携わることができます。夢の選択肢が無限に広がるすばらしさは学類の仲間が皆、口を揃えて言うことのひとつです。

まだまだお伝えしたい魅力はたくさんありますが、それは皆さんがこの医療科学類に入学してからぜひ身をもって感じて頂けたら嬉しいです。医療に携わりたい、と考えるすべての方に向けて、夢への切符を持たせてくれる医療科学類を私は自信をもってお勧めします。



高見 美帆さん

2017年度卒業
筑波大学大学院
人間総合科学研究科
フロンティア医科学専攻

皆さんこんにちは。私は平成29年度に筑波大学医療科学類を卒業し、現在同大学院人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻に在籍しています。私が医療科学類を志望した1番の理由は、臨床検査技師の資格が取得でき、かつ研究者としての道も開かれている点です。

当初私は臨床検査技師として働き、病気の早期発見に貢献したいと思っていました。というのも、親戚の病気の発見が遅れ、本来なら飲み薬で治せたものが手術しなければならなくなってしまったという経験から、治療はもちろん、検査の重要性を実感したからです。同じ時期にiPS細胞が話題になっていたことから、これについて勉強して病気の治療につながる研究もしてみたいという気持ちも強くありました。そこで臨床検査技師だけでなく研究者の育成も目指すこの医療科学類にたどり着きました。

医療科学類では臨床検査技師に必要な知識だけでなく、医科学について広く深く学ぶことができます。1学年40名ほどで、ほぼ全ての授業をみんなで受けます。そのため、仲が良く、結束力も強いです。講義、実験、実習、テスト、レポートに追われる毎日でしたが、みんなで協力して乗り越えることが出来ました。それぞれがサークルや部活動、アルバイトとも両立させ、充実した学生生活を送ることができた気がします。私は1年生からダンスサークルに所属していました。時間的にも体力的にも厳しい場面が多かったのですが、その分他学類の友達もでき、楽しい思い出もたくさん作ることが出来ました。

3年生後半の病院実習では実際に臨床検査技師の業務について学ぶ機会を得ました。実際に患者さんの胸に電極を貼付して心電図をとったり、尿検体検査を機器を使って行ったりしました。そして4年生からは自分の興味のある研究室を選び卒業研究を行いました。私は入学前から興味があったiPS細胞に関する研究を始めました。授業だけでなくこのような病院実習や卒業研究を通して、最終的に、私は卒業して臨床検査技師として働くのではなく、大学院に進み研究や勉強を続けて新しい治療法や薬の開発に携わり社会に貢献していきたいと思うようになりました。こういった選択が出来たのも医療科学類だからこそだと思っています。そして今大学院修士課程へ進学し、卒業研究をさらに発展させた内容で研究を続けています。

医療について学びたいが何になりたいたか決めかねている、研究してみたいけど資格も取りたい、といった方にとって医療科学類は最適な環境だと思います。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。



柴 綾さん

2006年度卒業
筑波大学医学医療系 助教

筑波大学をご検討中の皆さん、こんにちは。私は平成18年度卒業生の柴です。私は医療科学類の前身である看護・医療科学類、医療科学専攻を卒業し、その後本学大学院で修士課程、博士課程を経て、現職に就きました。

医療科学類は臨床検査技師の国家資格を目指す学類でありながらも、それに必要な科目に限らず医学、生物学、分子生物学など様々な学問を学ぶチャンスがありました。講義をして下さる先生方のバックグラウンドも多岐にわたり、教員である一方で各分野で最前線を走る研究者である先生方から、ご自分の研究について講義で聞いたのは本当に貴重な機会でした。私が現在の上司である野口雅之教授に出会ったのも、2年次に受けた基礎医学総論という授業だったことを今でも覚えています。野口教授の「肺癌を完治できる癌にしたい」、「医学部(医学群)で行う研究は、病気の予防、診断、治療のいずれかに役に立つものでなければならない」という強い信念に共感し、3年次から卒業研究生としてご指導頂くことになりました。尊敬できる指導教官と出会えたことは本当に幸運だったと感じています。

また、卒業研究の指導教官のみならず、学類のクラス担任の先生や、講義や実習を受け持つ先生方との出会いにも本当に恵まれていました。学生にきちんと向き合い共に考えてくださる先生方が多いのも医療科学類の魅力の1つで、私は学生の頃勉強のことだけでなくプライベートなことや将来の不安まで相談した記憶があります。その時に築いた先生方との関係は、自分自身が教員となった今でも温かいものであり、かけがえのない財産となっています。

大学生活で得る最も重要なものの1つは人との出会いです。私が良い師、良い友と出会った筑波大学を自信を持って皆さんにお勧めします。